

文化財 ぶんかざい だより

No.3

発行 太田市教育委員会
 発行年月日 平成17年3月27日
 編集 太田市教育委員会文化財課
 住所 群馬県太田市浜町2番35号
 電話 0276-45-7108

新田荘ふれあい探検スタンプラリー



太田市・尾島町・新田町を中心とした地域には、かつて日本の中世史を代表する荘園である、「新田荘」が存在しました。

平成12年11月1日付けで、この新田荘の中の代表的な遺跡が「新田荘遺跡」として国史跡の指定を受けました。そこで、太田市教育委員会・尾島町教育委員会・新田町教育委員会では、郷土の先人が残した貴重な歴史遺産が身近にあることを知っていただくため、平成12年度からパンフレット・地図の作成やバスツアー・スタンプラリーなどの事業を実施しています。

本年度は、平成16年7月21日(水)から8月31日(火)まで、1市2町の教育委員会主催により、新田荘遺跡等23か所を巡るスタンプラリーを開催し、2,237名の方にご参加いただきました。

参加者の皆さんには、猛暑の中でしたが、ふだん身近にありながら訪れることの少ない文化財や資料

館などを巡ることで、郷土の歴史に対する理解を深めていただくとともに、家族や友人とのふれあいを図っていただけたのではないのでしょうか。

スタンプ設置場所

太田市	(1)円福寺境内・十二所神社境内 (2)正法寺 (3)金龍寺 (4)金山城跡 (5)曹源寺さざえ堂 (6)天神山古墳 (7)塚廻り古墳群第4号古墳 (8)高山彦九郎記念館
尾島町	(9)総持寺 (10)長楽寺 (11)東昭宮 (12)東毛歴史資料館 (13)縁切寺満徳寺資料館 (14)明王院 (15)再蓮寺 (16)岩松八幡宮
新田町	(17)木崎宿色地藏 (18)江田館跡 (19)反町館跡 (20)生品神社 (21)重殿水源 (22)矢太神水源 (23)大慶寺

金山城跡の最新情報

● 西堀切へと続く2列の柱穴のナゾ!! ●

■調査場所：太田市金山町

■調査期間：平成16年7月22日～平成17年2月28日

■調査面積：670㎡



2列の柱穴を発見

平成16年度は、「西矢倉台西堀切西側新通路」と「見附出丸～西城間通路」の発掘調査を行いました。堀切内を通路としている西矢倉台西堀切へのルートが発掘調査では、平行に並ぶ2列の柱穴が見つかりました。この柱穴は、曲がりながら西矢倉台西堀切へと続いており、2列の柱穴の間は、舗装したかのように土が固めてあることも見つかっています。

そのため、柱穴列の間が当時のルート（通路）であったと思われる。

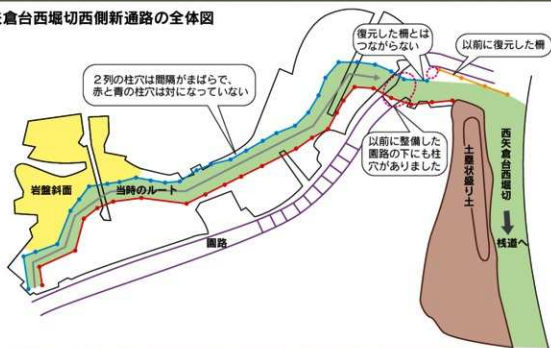
それでは、2列の柱穴はいったい何のためにあったのでしょうか……。

例えば、通路を造った時の土木工事の跡？または、西堀切の先にある「棧道（かけはしみち）」のように木を組んで造られた低い橋のような通路？

色々な事が考えられますが、残念ながら何であったのかは、はっきりとはしていません。

いずれにしても、お城の普請のために造った通路以外に、自然の地形に近いところで、このようにきちんと通路を造っているのは非常に珍しいことですよ。

西矢倉台西堀切西側新通路の全体図

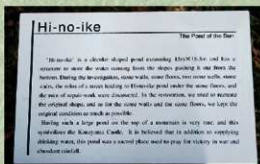




金山城跡整備



西矢倉台周辺の圓路階段



日ノ池の英語説明板→



金山城跡の公有地化

金山城跡は、昭和9年に国の史跡として18.3haの範囲が指定されましたが、その後、平成14年に追加指定され、指定面積は約5倍の97.8haに広がりました。この中には私有地が存在しており、城跡遺構群の保存管理と調査・整備の推進を図るため、現在、その公有地化を行っています。

平成16年度は12haを公有地化し、これにより、公有地面積は約71ha、公有地化率72%となりました。引き続き平成17年度以降も公有地化を進め、史跡金山城跡の保護と整備・活用の一層の推進を図っていきます。

平成16年度の金山城跡整備事業は、西矢倉台周辺の圓路階段工事を行いました。この圓路階段は、平成14年度に復元整備した棧道から東側先に位置します。圓路階段箇所は、発掘調査で戦国時代当時のルートであることがわかっていましたが、通路遺構が流失してしまっていたため、圓路階段として復元整備した通路間を機能的につなぎました。この西矢倉台周辺の圓路階段工事により西矢倉台西堀切の堀底道から馬場曲輪周辺に至る金山城の戦国時代当時のルートが結ばれました。

一方、国際交流が盛んになり、太田市を訪れる外国人が増えると共に、太田市が国の構造改革特区の一つとして「英語教育特区」に認定されたことなどを受け、太田市のシンボルである金山城の主要整備箇所（日ノ池・大手虎口・月ノ池）に英語説明板を設置しました。この英語説明板は、これまで設置された遺構説明板に小型プレートを取り付けたもので、今後も馬場曲輪から西側について、順次、設置していきます。

保存管理計画（測量）

史跡金山城跡は、北城（坂中城）、八王子山ノ砦、大手道、土屋敷などの主要な曲輪群を含む97.8haに追加指定され、それに伴い、新たな保存管理計画策定の基礎資料とするため、4ヵ年計画で現況遺構測量を実施しています。

平成16年度は、その2ヵ年目で、実城南側に位置する鍛冶曲輪、南木戸、東矢倉台、比丘尼坂筋遺い城門北側（八王子山ノ砦〜実城間の石壁や段状曲輪など）について測量図化を行いました。



測量範囲の航空写真

金山城跡投句箱

俳句の吟行を通して、歴史遺産である城跡や金山の自然・眺望などのすばらしさを再発見すると同時に思い出を残していただくため、金山城跡南曲輪休憩所内に投句箱を設置しています。

投句箱は、年4回開き、太田俳壇の協力を得て選定を行い、入選作は表彰すると共に休憩所内に掲示しています。皆さんの投句をお待ちしています。

- ◆入選作品より
- ・ 歩幅には広き礎なり櫻落葉
 - ・ 万葉の芽の萌えい出づる大樺
 - ・ 碑の万葉仮名の文字涼し
 - ・ 山頂にしたたる汗を捨ててくる
 - ・ 城跡の謎めける道姫女苑
 - ・ 秋時雨城跡めぐる傘二つ
 - ・ 秋高し展望台に車椅子
- ◆ジュニアの部
- ・ さくら咲くわたり三年じゅん一年
 - ・ もう夏が金山城にいっぱいだ
 - ・ 金山に秋を見つけにハイキング

関東の富士見100景に選定

「中島記念公園（史跡金山城跡・南曲輪）」が、国土交通省関東地方整備局で募集した「関東の富士見100景」に選ばれました。これは、富士山への良好な眺望を得られる地点を選定し、周辺景観の保全や活用への支援を通して、美しい地域づくりを推進することを目的としているものです。

選定地点は、金山の頂上近くにある「日ノ池」の南、休憩所などがある所です。空の澄み切った晴れた日の朝によく見えますので、早朝登山を楽しんでみてはいかがでしょうか。



秩父山地の上に顔を出す富士山（選定地点から）

金山城保存会

金山城跡の歴史的景観を自分たちの手で維持しようと、平成15年に「金山城保存会」が発足しました。

保存会では、復元整備の完了した箇所の手直しや清掃活動を40名余りの会員によって取り組んでいます。また、今後はボランティアガイドとしての活動も予定しており、学習会や市外研修を行なっています。皆さんも参加してみませんか。



日ノ池での清掃活動風景

金山城跡南曲輪ノートより

平成16年5月28日(金)

久々に新緑の金山にゆっくりとおいしい空気をいっぱい吸いながら登りました。往時をしのびながら気持ちのいい一時でした。

石垣の城の美しさを子供達にしっかり伝えたいです。ふるさと「太田」をしのび、ほこりに出来る我がまちであることを多くの人に知ってほしく思います。

(龍舞町在住 59歳 女)

平成16年7月22日(木)

富士山が見れてちょうれしかったよ !!

平成17年1月4日(火)

80歳になります。整備がととのいすばらしいです。

(高崎市 S)



埋蔵文化財最新情報展



- 期 間：平成16年5月18日～9月5日
- 会 場：高山彦九郎記念館2階展示室
- 観 覧 者：2,795名
- 展示遺跡：新野監屋遺跡群・下田島遺跡・中西田遺跡・史跡金山城跡・相場観音経塚・下小林高射砲陣地跡

平成15年度に太田市教育委員会が発掘調査した市内の6つの遺跡の調査概要を紹介する速報展を開催しました。

展示品の中では、新野監屋遺跡群（城西の杜）で出土した高さ1mを超える市内最大級の朝顔形円筒埴輪（写真左上）や、相場観音経塚（矢場町）から出土した、お経の文字が書かれた「経石」（写真下）が注目を浴びていました。

また、下小林高射砲陣地跡（石原町のショッピングセンター）で見つかったコンクリート製の高射砲台座をもとに76分の1縮尺で復元模型を制作・展示しました。この模型では、上空を飛ぶB29爆撃機も用意し、当時の様子を再現（写真左下）しました。



金山城跡模型展示（市役所1階ロビー）

- 期 間：平成16年4月19日～5月6日
- 会 場：太田市役所低層棟1階ロビー
- 観覧者：太田市役所来庁者多数

平成15年度に高山彦九郎記念館を会場として開催した「いま、解き明かされる金山城」展で好評を得た2点の金山城イメージ立体模型を展示しました。

「大手虎口中央通路周辺」（写真奥）と「物見台周辺」（写真手前）の両資料とも、今回の展示でも多くの市役所来庁者の皆様に見学していただきました。



市役所ロビーに展示された金山城跡模型

文化財講演会

- と き：平成17年2月13日(日)
午後1時30分
- ところ：太田市学習文化センター視聴覚ホール
- 参加者：296名



大道東遺跡発掘について基調報告する廣津英一先生



東山道駅路武蔵路について講演する木下良先生

- 基調報告：「大道東遺跡の東山道駅路について」～古代集落を通る東山道駅路の発掘調査～

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の廣津英一先生から、北関東自動車道建設に伴う東今泉町の発掘調査現場について、基調報告をいただきました。

平成14年度から開始された金山丘陵東部の各遺跡の発掘調査により、古代の古道である東山道駅路と考えられる遺構（ハゲ入遺跡・大道西遺跡・大道東遺跡・鹿島浦遺跡）が約1kmにわたり直線的につながることがわかりました。

- 講演：「古代道路東山道」～東山道本道と武蔵路の路線検討を主として～

古代交通研究会会長で、元國學院大學文学部教授の木下良先生から、古代の交通制度とその変遷や東山道駅路武蔵路について、ご講演いただきました。

古代に建設された駅路と現在建設中の高速道路も目的地に最短距離で計画されることが多いので、両者の路線が共通し、発掘調査において古代道路が発見されることが多い、との指摘がありました。

史跡めぐり

- テーマ：「近代化遺産を歩き訪ねて」
- と き：平成16年10月31日(日)
- ところ：群馬県松井田町（めがね橋からアプトの道探訪・碓氷峠鉄道文化むら・五料の茶屋本陣）
- 参加者：38名



鉄道文化むら鉄道展示館の前にて

群馬県西部の松井田町にある碓氷峠には、アプト式鉄道（急勾配を登るための鉄道）が使用されていた当時の橋梁やトンネルなどの鉄道文化財が現在も数多く残されています。

今回は、このような近代化遺産を歩いてめぐる旅なので、コースの設定や天候が心配されましたが、参加者全員、5kmの道のりを無事歩き切ることができました。健康ブームもあり、参加者の方々は「歩き訪ねる史跡めぐり」に大変満足しておられたようです。めがね橋からアプトの探訪では、晴れ間も見え、周りの景色が一層鮮やかで、自然を満喫することができました。心地良い疲れと、近代化遺産を間近に感じられた一日となりました。



文化財愛護少年団・文化財教室

文化財愛護少年団では、文化財の見学・体験を通して、楽しく歴史や文化を学んでいます。太田市や周辺の地域を理解するとともに、様々な活動を通して仲間づくりのきっかけにもなっています。

平成16年度の行事では、平成17年1月7日(金)、一般公募の文化財教室と合同で、群馬県富岡市へのバスツアーを行いました。旧官營富岡製糸場では、群馬県の「世界遺産伝道師」お二人のご案内により、明治初めに作られた、日本を代表する近代化遺産の素晴らしさを実感しました。

群馬県立自然史博物館では、群馬の自然と環境の展示を解説員の説明を受けながら見学し、地域の歴史と自然を学びました。また、恐竜の時代や人類の進化に触れ、壮大なる地球の生い立ちを学び、深い感銘を受けました。

また、帰りのバスの車中では、難易度の高いクイズにも取り組みましたが、高得点続出で参加者の熱心な学習の成果が現れました。



旧富岡製糸場の建物を見上げる参加者



探究心をかきたてる自然史博物館

金山城跡自然探訪会



講師の説明を熱心に聞き入る参加者



完成した標本を互いに見比べてみる

- テーマ：～初秋の金山を標本にしよう～
- 講師：青木雅夫先生（館林市立第十小学校校長）
- と き：平成16年9月19日(日)
- と ころ：ぐんまこどもの国・児童会館第1研修室
- 参加者：33名

初秋の金山の代表的な植物の様子を観察するとともに、遊歩道から脇にそれて、普段目につくことのない植物の観察も行いました。

午後は、室内で「標本づくり講座」を行ったほか、プロジェクターを使っての植物の細かい説明もあり、植物の扱いについても学習しました。

ご参加いただいた方々は、実際に植物を見たり触れたりすることで、より一層金山の自然を理解していただけたことと思います。

西野原遺跡（第1次調査）～北関東道側道調査始まる～

- 調査場所：太田市西長岡町地内
- 調査期間：平成16年10月12日～平成17年3月11日
- 調査面積：3,000㎡

北関東自動車道側道建設工事に伴い実施された西野原遺跡の調査では、東武桐生線の線路から西側の調査区で古墳時代後期の竪穴住居址が3軒、道跡が1本、時期不明の溝址5条などが見つかりました。

それぞれの竪穴住居址からは、坏や壺など当時の生活用具が出土しました。また、竪穴住居址の中には平面形が、方形だけでなく、張り出しをもつ凸形のものも見つかりました。

なお、今回の調査地点の南北両隣では、財団法人群馬埋蔵文化財調査事業団によって、北関東自動車道本線及び調整池建設に伴う発掘調査が行われました。特に北隣の地点では、大量の鉄滓（鍛冶を行った際に生ずる不純物が混ざった廃棄物）と製鉄遺構が見つかり、この一帯に奈良・平安時代において鉄生産を行う工房があったことがわかりました。



発掘調査の様子（東から）



張り出しをもつ住居跡（東から）

長福寺遺跡（第2次～4次調査）

- 調査場所：太田市下田島町地内
- 調査期間：第2次 平成16年4月20日～5月18日
第3次 平成16年6月14日～8月31日
第4次 平成16年7月8日～8月31日
- 調査原因及び調査面積：

第2次	土地区画整理確認調査	440㎡
第3次	民間開発に伴う本調査	5,471㎡
第4次	土地区画整理本調査	1,400㎡



9世紀後半と推定される基壇建物址（南から）

長福寺遺跡発掘調査は、宝泉南部土地区画整理事業による道路建設と、隣接地で行われた民間開発に伴って実施された発掘調査です。

調査の結果、古墳時代・平安時代・江戸時代の遺構が確認されました。古墳時代の遺構は、竪穴住居址5軒と土坑2基が確認され、土師器が出土しました。平安時代の遺構は、竪穴住居址1軒、基壇建物址1軒、溝址が2条確認されました。

基壇建物址は、正方形の基壇を中心として、周囲に柱穴列や溝を回した小型の堂宇と見られます。柱穴列等の配置により、5回程建て替えられた痕跡が確認されました。また、ある時期に焼失したと見られ、焼けて赤く変色した布目瓦が出土しました。竪穴住居址と溝址からは、須恵器では墨で文字などを書いた墨書土器も発見されました。江戸時代の遺構としては、多くの井戸址と溝址が確認され、陶器の破片が出土しました。その他にも、時期不明の土坑が多数確認されました。



新野脇屋遺跡群（第11次調査）

- 調査場所：太田市城西町地内
- 調査期間：平成16年4月15日～平成17年3月9日
- 調査面積：14,053㎡

この発掘調査は、住宅団地造成事業（城西の杜）に伴い、造成地内の新設進入道路及び商業エリアを対象として、遺跡の記録保存を目的とした発掘調査を実施しています。

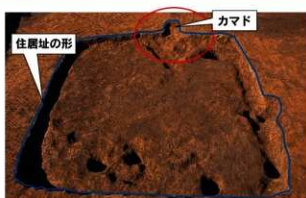
新野脇屋住宅団地造成地内には、堂原遺跡・脇屋古墳群・釣堂遺跡・中原遺跡らが集まってできている新野脇屋遺跡群があります。

この遺跡群は由良台地に立地しています。由良台地は太田市の西側に位置し、南北方向に長く幅の広い土の溜まった大地です。その大部分が大間々巖状地の一つの地形となります。由良台地は南に傾いて低くなっています。周囲にある水田低地面との高さは約2.0mの差があります。

平成16年度の調査では、今から4000年程前（縄文時代中期）が1軒、1600年程前（古墳時代前期）が6軒、1400年程前（古墳時代後期）が4軒、1200年程前（平安時代）が1軒の各時代の竪穴住居跡を合計12軒確認しました。

また、古墳時代前期の方形周溝墓を2基確認しました。大きさは一辺が約19～21mで、方形周溝墓としては標準的な大きさです。

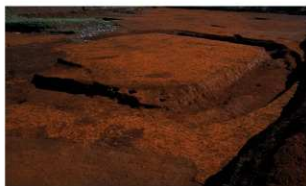
このほか、37条の溝址も確認されました。そのなかでも前年度までの調査で確認されていた住宅団地を南北に約650m続く大きな溝の一部が確認されました。幅は約2.8m、深さは約1.2mで、この調査区内では比較的大きな溝址です。



平安時代の住居址



住居址内で確認された高坏片



方形周溝墓の掘り上がり全景



住宅団地を南北につらぬく大きな溝の一部（北から）



方形周溝墓内で確認された壺片

東矢島遺跡群（第22次調査）

- 調査場所：太田市南矢島町地内
- 調査期間：平成16年4月19日～5月21日
- 調査面積：約250㎡

東矢島土地区画整理事業にともなって行われた東矢島遺跡（第22次）の発掘調査では、古墳時代前期の竪穴住居址3軒、削平された後期の円墳2基、近世の廃棄土坑3基が見つかりました。近世の廃棄土坑からは、ほうろくや陶磁器といった日常什器のほかに、土人形（恵比寿）なども出土しました。



見つかった近世の廃棄土坑（南から）

下田島遺跡（第5次調査）

- 調査場所：太田市下田島町地内
- 調査期間：平成16年7月15日～8月9日
- 調査面積：約480㎡

宝泉南部土地区画整理事業にともなって行った下田島遺跡（第5次）発掘調査では、古墳時代後期の円墳1基、時期不明の井戸址1基、土坑16基が見つかりました。見つかった円墳は、削平により周溝底面付近しか残されていませんでしたが、周溝の底面付近には整地したような土層の堆積が認められました。



調査地全景（東から）

宮内遺跡（第2次調査）

- 調査場所：太田市浜町地内
- 調査期間：平成16年8月19日～8月31日
- 調査面積：約30㎡

太田駅周辺土地区画整理事業の道路敷設工事に伴い確認調査が行われました。

宮内遺跡では、古墳時代及び平安時代の集落址の存在が想定されていましたが、調査の結果、近現代に行われたとみられる土地の攪乱により、遺構を確認することはできませんでした。



発掘調査のようす（西から）



強戸口遺跡群（第9次調査）



試掘調査の様子（南東から）

- 調査場所：太田市強戸町、緑町地内
- 調査期間：平成16年11月22日～12月9日
- 調査面積：3,100㎡

北部大規模開発に伴う強戸口遺跡群の発掘調査は、第9次を向かえ、笹ヶ入北遺跡の試掘調査を行いました。遺構は確認されませんが、縄文時代前期（今から6000年ほど前）の土器片や石斧などの遺物が発見されました。強戸口遺跡群の発掘調査は、今回で終了しましたが、引き続き遺物整理を行い、報告書の刊行を目指します。

出土遺物整理作業

文化財課では、発掘調査報告書の刊行や展示会に備えるため、発掘調査で出土した土器の接合・復元のほか実測などの作業を継続して実施しています。

平成16年度は、新野脇屋遺跡群や東矢島遺跡群、下田島遺跡、長福寺遺跡、西野原遺跡などの整理作業を行いました。

整理した資料の一部は、「市内遺跡21」や「長福寺遺跡第3次発掘調査報告書」として刊行しました。



事前協議

平成16年度 事前照会件数および調査面積

内容	事前照会件数		計
	公共事業	民間事業	
事前照会・協議	28件	620件	648件
試掘調査	123件	17件	140件
立会調査	15件	39件	54件
慎重工事	11件	89件	100件
試掘調査面積	120㎡	483㎡	603㎡
立会調査面積	145.3㎡	941㎡	1,086.3㎡
本調査面積	21,583㎡	7,171㎡	28,754㎡

試掘調査

遺跡名	試掘調査区域	試掘調査期間	原告者
長福寺遺跡	下田島町1128他	平成16年4月20日～5月18日	市
下田島遺跡	太田市下田島町1057-1他	平成16年6月21日～7月9日	市
田谷遺跡	太田市東矢島町1392	平成16年7月1日	民間
笹ヶ入戸遺跡	太田市下浜田町731	平成16年7月14日	民間
岩瀬川遺跡	太田市岩瀬川町363-1他	平成16年7月5日	民間
北之庄遺跡	太田市由良町1473-23	平成16年7月23日	民間
前沖遺跡	太田市鳥山下町395-1	平成16年8月4日	民間
同原遺跡	太田市脇野町169-2	平成16年8月12日	民間
向矢部遺跡	太田市富若町651	平成16年8月19日	民間
宮内遺跡	太田市浜町5-20他	平成16年8月19日～8月31日	市
天神山古墳（外堀）	太田市新島町308-4	平成16年9月21日	民間
本矢塚城跡	太田市矢塚町2962-2	平成16年9月27日	民間
北之庄遺跡	太田市由良町896-3	平成16年10月21日	民間
神明遺跡	太田市龍興町1870-1他	平成16年12月6日	民間
熊塚遺跡	太田市矢塚町2965-1	平成16年12月7日	民間
笹ヶ入北遺跡	太田市強戸町2075-41他	平成16年11月22日～12月9日	市

模擬火災訓練



円福寺本堂前での一斉放水の様子

1月26日は、国宝の法隆寺金堂壁画が焼失した日（昭和24年）にあたります。昭和30年、この日を「文化財防火デー」と定めて、毎年、全国的に文化財防火運動が実施されています。

本市でも、太田地区消防組合・関係機関及び地元住民の協力のもと、毎年、この日に近い日曜日に「文化財模擬火災訓練」を実施しております。

今年度は、平成17年1月23日に別所町の十二所神社及び円福寺境内で行いました。

訓練は午前9時から、十二所神社北の山林より出火という設定で発炎筒が点火され、初期消火作業、消防車及びジェットシューターの出動、一斉放水などの一連の作業が手際よく行われました。関係者のみならず地元住民との協力により見事な訓練を実施することができました。

冠稲荷神社本殿保存修理事業



修復作業中の冠稲荷神社本殿

冠稲荷神社は、天治2年（1125）源義国により創建されたと伝えられています。

神社本殿は、間口1.5間、奥行1間の三間社流れ造り正面千鳥破風向拝唐破風付きという建築様式で、棟札から享保7年（1722）12月に上棟された建物です。

「冠稲荷神社本殿並びに聖天宮」は貴重な歴史遺産として、昭和47年9月26日に太田市の重要文化財に指定されました。

本殿の浜縁部分及び床下部分が侵食の被害に遭い、文化財の保護及び来訪者への危険防止の観点から、解体修理及び揚屋による土台補修をはじめ、彫刻材等の塗装・補修等を行い、修復復元を図りました。



旧胎蔵寺大日如来像収蔵庫建設事業



旧胎蔵寺大日如来像収蔵庫（RC構造）

胎蔵寺は、1469年、岩松家純によって金山城が築城された際、その鬼門を鎮め、守るために置かれたとされる寺で、寺号を鑑阿山胎蔵寺と称し、足利の大日様を勧請して建立したと伝えられています。

しかし、1590年の金山城廃城以後、胎蔵寺も廃寺となりました。その後は、大日如来像を安置する大日様として東金井町の人々によって守られ、貴重な文化財として平成8年2月19日付けで太田市の重要文化財に指定されました。

昨今、文化財の盗難事件が続出しており、先人が残した貴重な歴史遺産である、「旧胎蔵寺大日如来像」の保護・保存を図り、文化財愛護思想の高揚を図るため、RC構造の収蔵庫を建設しました。

沖之郷祇園山車（北耕地）保存修理事業

沖之郷祇園山車は、東南耕地・西新耕地・北耕地の3台あり、平成6年12月12日付けで太田市の有形民俗重要文化財に指定されました。

沖之郷祇園山車は祇園祭の際、江戸時代につくられた山車として、市内で巡行される唯一の山車です。

老朽化した沖之郷祇園山車を文化財保護の観点から、平成14年度より修復復元3ヶ年事業として開始し、その最終年として北耕地の山車を修復復元しました（平成14年度に東南耕地、平成15年度に西新耕地の山車を修復実施）。

修復の概要は以下のとおりです。

- ①全面解体及び組み立て
- ②木部補修（敷居、床板等腐朽部分の交換や、はぎ木補修、埋め木補修を施す）
- ③彫刻補修（欠損部分を復元する）
- ④車輪補修（車輪を4本解体・修繕をし、組み直す。また、車輪やタイヤコ胴の金輪の焼き締めを行う）
- ⑤建具補修（欄間の補修・建具4本の組子を新規に作成）
- ⑥塗装補修（全面塗装を施し、彩色・金箔を復元）
- ⑦金具補修（既設の金具を補修するとともに、垂木や土台・框に小口巻きを施す）



解体修復中の沖之郷→
祇園山車（北耕地）

講演会

- テーマ：「水戸藩と高山彦九郎」
- 講師：仲田昭一先生（茨城県那珂町社会教育委員）
- とき：平成16年5月9日(日)
- ところ：高山彦九郎記念館2階
- 主催：太田市教育委員会
- 共催：高山彦九郎研究会
- 来場者：77名

水戸光圀までさかのぼる「水戸学」の伝統を継承する水戸史学会理事の仲田昭一先生をお招きし、講演会を開催しました。

仲田先生の高山彦九郎資料との出会い、彦九郎の水戸訪問、水戸における彦九郎遺墨類の伝播、他藩士の水戸藩訪問というテーマに沿い、高山彦九郎と水戸藩との関わりや彦九郎が水戸に与えた影響について詳しくお話いただきました。



また、テレビドラマ「水戸黄門」が始まったいきさつから水戸藩の思想まで、幅広いお話により、新たな角度からの彦九郎の理解が広がりました。

学習会

- テーマ：高山彦九郎「江戸日記」を訪ねる
- 講座：とき 平成16年9月5日(日)
ところ 高山彦九郎記念館2階
- 見学：とき 平成16年9月12日(日)
ところ 小石川後楽園（旧水戸藩邸）・
湯島聖堂・江戸東京博物館
- 参加者：講座35名・見学32名

講座では、高山彦九郎の「江戸日記」の記述を元に、彦九郎の江戸での寄留先や交友した人物の住む鉄砲津の中津藩中屋敷（前野良沢・築次正）、浜町の囃鳴館（細井平洲）、小石川の水戸藩上屋敷（長久保赤水）や寺社などを江戸の絵図と照らし合わせながら学習しました。

見学にはバスを使用し、東京都文京区にある国特別史跡・特別名勝の小石川後楽園（水戸藩上屋敷の一部）では彦九郎と交流のあった藤田巖谷の子藤田東湖の石碑を見学、国史跡の湯島聖堂では管理団体である（財）斯文会の職員にご案内いただき、墨田区の江戸東京博物館では高山彦九郎との関わりの中で展示を見学しました。



高山彦九郎記念館での学習



小石川後楽園



高山彦九郎「北行日記」を訪ねる旅

- と き：平成16年11月13日(土)・14日(日)
- と ころ：水戸市（茨城県立歴史館・常盤神社・脩楽園好文亭・彰考館徳川博物館・弘道館・藤田幽谷東湖宅跡・六地藏寺立原翠軒墓）・常陸太田市（正宗寺佐々奈淳墓及び佐竹氏の墓・久昌寺・西山荘・佐竹寺）
- 主 催：高山彦九郎研究会
- 後 援：太田市教育委員会
- 参加者：27名



茨城県立歴史館では「彦九郎日記」を閲覧

本年度、高山彦九郎記念館で開催された講演会と学習会を受けた企画です。高山彦九郎の「江戸日記」や「北行日記」を読んで、江戸や水戸における水戸藩と高山彦九郎との関係について学ぶ勉強会を事前に4回実施しました。両日とも、5月の講演会に講師としておいでいただいた仲田昭一先生のご案内により、彦九郎ゆかりの地をバスで巡りました。



高山彦九郎も訪れた水戸光園の西山荘

行政サポーターズ

毎月1回、サポーターの自主的な勉強会が高山彦九郎研究会会長の正田喜久氏を講師に開催されました。勉強会には同研究会員も加わり、さまざまな角度から高山彦九郎の理解に取り組みました。

勉強会の成果は、日頃の高山彦九郎記念館でのサポーターによる展示解説活動に生かされています。



サポーターの勉強会

見学者の声（御意見帳より）

平成16年7月17日(土)

彦九郎さんはすごい人なのになんで教科書にのらないんですか。のせましょうよ。（南中2年生2人組）

平成16年8月24日(火)

はじめてここにきました。おじさんがいっぱい教えてくれました。わたしは、まだちっちゃいので、よくわかりませんが、日本じゅうを歩いて、いった

のですごいと思いました。もっと大きくなったらまたきます。（スタンプラリー参加者）

平成17年1月26日(水)

今日で40才になりましたが、彦九郎さんには年をとっても全くかきません。

短命であったけれど、中身の濃い人生を生きたのですね。もっと全国にこの方を知らしめたいです。

文化財調査委員

文化財調査委員は太田市文化財保護条例で定められた諮問機関で、当市では文化財に関わる学識経験を有する5名の委員がいます（委員とその専門分野は次のとおり）。

木村隆俊（産業史）／梅沢重昭（古代史・古墳文化）／茂木 晃（近現代史・都市地理）／竹政一夫（原始古代史）／須藤 聡（中世史）

文化財調査委員は教育委員会の諮問に応じ、文化財の保存と活用に関する事項を調査研究し、教育委員会に意見を具申しますが、日ごろから太田市の文化財行政について貴重な意見をいただいております。

本年度は3回の会議と1回の視察を行い、熱心な討議が行われました。



旧金山図書館で開催された旧市最後の文化財調査委員会議

これからの文化財行政

文化財課長 宮田 毅

合併して新太田市になると、市域は約2倍、指定文化財数は180数件となり、旧太田市の3倍を超える数となります。これらの文化財を総合的に保護するとともに、広域的な活用を図り、どのようにして現代に息づかせて行けるか、これから大きな課題となってきます。

文化財行政の目標は、保護・継承することが最終目標ではなく、文化財（文化遺産）をいかに活用し満足してもらえるかにあると思います。

合併の大きな目的の一つには、より機動的で、かつ簡素で効率的な組織の形成があります。しかし合併によって、住民サービスの低下を招いてはならないことですし、ましてや文化財の保護が疎かになってはなりません。むしろ、従来の行政のやり方では対応できない領域や内容へもサービスの提供を拡大する方向へと推進しなければならぬと思います。

今までの文化財活用事業は、どちらかと言えば、学習機会を提供する「提供型」の事業が主体となっていました。しかしこれからは、市民一人ひとりの学習ニーズを生かした学習機会の提供や、広い視野に立った多様な学習の展開が求められてい

ます。市民にとって、学習機会が提供されるのを待つという受け身ではなく、「自ら学び」・「自ら親しむ」という能動的な学習意欲やニーズが益々高まっていくことでしょう。

このような、幅広い学習ニーズに応えて行くには、まず、文化財等に関する種々の情報発信が欠かせないものになってくると思います。また何よりも、「ひと」の問題が重要となってきます。行政だけの力では到底及ばないところを補ってもらえる人材や、行政を力強く支援してくれる人材が必要となります。また、活用する側にとっても、熱意を持ったリーダーが不可欠となります。このような市民活動の「キーパーソン」となるような人材の発掘や育成も、今後の重点課題として取り組まなければならないだろうと認識します。

行政と市民が「協働」して文化財を護り、有効な活用が図られようになること。そして、文化財やそれに関わる市民が核となって「地域づくり」推し進めるようになることが、これからの文化財行政における「新しい公共空間の形成」であり、目指す所ではないかと考えております。

◆ 太田市のホームページアドレス ◆ <http://www.city.ota.gunma.jp/>
◆ 文化財課 ◆ Eメール 042000@mx.city.ota.gunma.jp